



茨城県ブロック総会を開催 ブロック長に川松氏が再任 副ブロック長に松崎氏・鈴木氏が就任

本会では、ブロック長の互選と組織強化を目的に、全国の各ブロックに会員総会の開催をお願いしている。これに応じて、茨城県ブロックでも10月23日に総会を開催し、ブロック長の再任と、副ブロック長を選任した。また、総会開催後には、本会の山本事務局長を講師に、福祉用具サービス計画をテーマに研修会を開催。定員を超える40名の参加者が熱心に講義を聞きいった。

茨城県ブロック総会開催！ ブロック長に川松氏を再任

去る10月23日（火）、全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）茨城県ブロックが、ブロック総会を開催した。この総会は、本部役員とブロック長の任期を同一とするため、年内に各都道府県のブロック長の互選を行う目的で開催したもの。総会では、現ブロック長の川松正明氏（㈱ロングライフ）が議長となり審議が行われ、第1号議案「ブロック長の選任に関する件」では、川松氏を再任。新たに副ブロック長として松崎佐一郎氏（マツザキマテリアル㈱）並びに鈴木淳氏（㈱ヤマシタコーポレーション茨城営業所）の2名が選任された。第2号議案「事務局の設置に関する件」では、これまで通り、ヤマシタコーポレーション茨城営業所に設置することで承認された。再任された川松ブロック長からは、「今後は、会員の皆様と共に茨城県ブロックの活動を広げて行きたい」との挨拶があった。引き続き、ふくせんの山本事務局長より、情勢報告が行われ、福祉用具サービス計画の進捗状況とともに、来年度スタートする「福祉用具専門相談員の研修ポイント制度」に対する協力を要請した。

「福祉用具サービス計画書」研修、定員を超える応募者

総会終了後、茨城県ブロックは、茨城県福祉サービス振興会との共催で、「福祉用具サービス計画書作成における留意点」というテーマで研修会を開催した。定員の40名を超える申し込みがあったが、会場の都合で参加を断ったケースも多数。関心の高さがうかがえる。冒頭あいさつに立った桐原久雄氏（振興会専務理事）は、「地域包括ケアシステムにおいても在宅での福祉用具をいかに取り入れ、介護者の負担軽減に繋げていくかが課題」としていた。また、この解決に向けて、「福祉用具専門相談員がスペシャリストとして他の介護関係者との情報を共有しながら、利用者の状況に合わせた質の高いサービスを提供することが求められている。」とし、本研修会を通して制度や福祉用具サービス計画の理解を深めてほしいと述べた。



総会風景（写真右より、川松ブロック長、山本事務局長）

研修会の講師は、総会での情勢報告に続き、ふくせん山本事務局長。計画書の作成見本を基に講義を行った。講義では東京都中野区などいくつかの保険者が、特定福祉用具販売の従来の申請書に添えて計画書の提出を求めるケースが出現。今後、全国的に波及する可能性がある、と予測。また、福祉用具事故等の予防策として、利用者が正確に福祉用具を使用出来ているか定期的に確認し、状況に応じて利用の見合わせを勧めるなど、利用者・介護者・ケアマネジャーとの情報共有が必要。そのためにも、しっかりと「モニタリング（シート）」の作成をしてもらいたい、と述べていた。当初の講義時間を延長しての内容となり、熱心にノートを取る受講生が見受けられた。



茨城県ブロック、茨城県福祉サービス振興会との合同研修会